

群馬と台湾の深い結びつき

手島

仁

理事
前橋市文化国際課副参事・
歴史文化遺産活用室長

今年三月、「羽鳥重郎・羽鳥又男読本」が刊行されました。郷土の埋もれた偉人を発掘し、多くの市民にその存在を知ってもらおうとともに、台湾との親善を深めることを目的に、富士見商工会が企画し、文章は私が担当しました。

羽鳥重郎は、台湾の風土病の撲滅に功績のあった医学博士で、羽鳥又男は昭和十七年から台南市長をつとめ善政を施した政治家です。

二人を研究することになったのは、平成十七年のことでした。当時、学芸員だった群馬県立歴史博物館に、羽鳥又男三男の羽鳥直之氏と元富士見村長の関口隆正氏らが見えられ、台湾の実業家・許文龍氏が羽鳥又男の胸像を贈りたいとの意向で、当館で常置できないかという相談でした。ただ、富士見村は前橋市との合併問題

で村を二分する対立が続き、銅像受け入れを議論する余地はありませんでした。

博物館では常設展示できませんでしたが、ご指導いただいている平成国際大学名誉学長の中村勝範先生に相談しましたところ、羽鳥又男は日本では無名の存在なので、まずその人物を広く知ってもらうため日台関係研究会の例会で報告してみようかと、その機会を与えてくださいました。平成十八年六月例会で、楊合義・平成国際大学名誉教授・羽鳥直之氏と私による鼎談「最後の日本人台湾市長羽鳥又男」が実現しました。会場には小田村四郎先生もお見えくださいました。中村先生は、この鼎談を機関誌「日本と台湾」平成十八年九月号に、また『東アジア新冷戦と台湾』（早稲田出版）に収めて

くださいました。同書のあとがきで「羽鳥又男の徳と台湾市民のかかわりの記録が消滅するに忍びず、日台関係研究会の機関誌に全記録を掲載し、本書に全文を再録した」と述べています。

その後、羽鳥又男の胸像は羽鳥家の菩提寺である珊瑚寺に安置されることになりました。平成十九年四月に除幕式が行われ、台湾駐日代表処から李世昌・文化部長も出席されました。翌二十年、許文龍氏から今度は「台湾紅茶産業の父」と呼ばれている新井耕吉郎の胸像が贈られ、郷里の沼田市利根町園原に建立されました。十月に行われた除幕式には、許氏の名代として作家の平野久美子氏が出席されました。

許文龍氏から贈られた胸像をきっかけに、群馬県と台湾の関係を調べてみると、驚くべき事実が分かりました。

吾妻郡原町（東吾妻町）出身の石坂莊作は、明治三十六年に台湾で最初の夜学校「基隆夜学校」を創設。日本人でも台湾人でも、昼間学校へ行けない者に門戸を開き、授業料は不要でした。明治四十二年には市立図書館「石坂文庫」

を創設し、石坂は「基隆の聖人」とか「台湾図書館の父」と呼ばれていました。

碓氷郡松井田町（安中市）出身の中島長吉は「六氏先生」の一人でした。明治三十年、伊沢修二の篆額になる「中島長吉之碑」が建てられ、現在も同地に保存されています。

キリスト教主義の共愛学園は群馬県最古の女学校を前身としています。台湾人の周再賜は大正十四年から昭和四十年まで四十年間も校長をつとめ、多くの県民から敬愛され、群馬の昭和期を代表する教育者でした。

昭和二十二年に誕生した『上毛かるた』の歴史的源流は、台湾伝道をしていた碓氷郡板鼻町（安中市）出身の牧師、須田清基が、台湾の子供たちの教育のために始めた『台湾いろはかるた』でした。上毛かるたは、群馬交響楽団と並ぶ戦後群馬の二大文化です。

群馬県と台湾の間にはこのような素晴らしい歴史があります。これを共有財産として、群馬県から日本と台湾の両国の絆を、ますます深めていきたいと思っています。